

愛南町政 2期目に向けて

愛南町長 清水雅文



私は、去る10月の町長選挙におきまして、無投票というかたちで再選させていただきましたが、その分、町民の皆様の大きな期待に応えるため今後の4年間の町政を担うという重責を痛切に感じているところであります。無投票で当選させていただきましたことに慢心することなく、町民の皆様と同じ目線で時代の流れと変化を的確に捉え、愛南町の発展のため、精一杯の努力を重ねていくとともに、私の信念である「公正・公平」を貫いていく所存です。

さて、「光陰矢のごとし」と

言いますが、本当に月日の経つのは早いもので、「限られた財源の中で、新庁舎建設よりも先にやらなければならないことがたくさんある」と訴えて4年が経過しました。その間、町内全域に光ケーブルを敷設し、近隣自治体に大きく遅れをとっていた地上デジタル放送の難視聴解消を実現させ、同時に高速イ

ンターネット網を構築しました。また、将来の愛南町を背負っていく子どもたちが、安心して学校教育を受けられる環境を整えるため、学校施設の耐震補強工事に着手し、現在では愛南町内のすべての学校施設で耐震化が完了しています。そのほかにも、地域のニーズに応じた各種の社会資本整備事業において、国の臨時交付金を活用し、本町のわずかな一般財源でそのほとんどを実施できましたことは、町民の皆様のご理解とご協力があったることだと考えています。

2期目の

展望について

安心安全な町づくり

1期目の町政運営を終えた今、一番の課題は「災害に強い町づくり」を実現することです。近い将来起こるとされる南海トラフ巨大地震は、先



の東日本大震災と同等、もしくはそれ以上と言われています。私は「まずは逃げる、最低限命だけは守る」ことが一番重要だと考え、そのための避難路の整備と避難場所の確保を最優先として、全力で取り組んでいきたいと考えています。

高規格道路の整備

「町づくりは道づくり」と言われますが、道路網の整備は、観光客を含めた交流人口の増加や愛南町の売りである日本一の味と鮮度を誇る「海の幸」、「山の幸」の都会への搬送時間の短縮、企業誘致や緊急医療体系の向上、更には災害時の「命の道」として重要な役割を果たすものであり、高速道路の延伸、そして、一日も早い「四国8の字ネットワーク」の完成を関係諸機関に強く働きかけていきます。

新庁舎の建設

東日本大震災の教訓から、現在の老朽化した庁舎のことを考えると、非常時における住民の生命・財産を守るための防災の拠点としての役割も果たす新庁



舎の建設については、やはり必要であると考えており、併せて、愛媛県との合同庁舎化も検討していく考えです。新庁舎の建設に際しては、本町の財政に極力負担をかけないためにも、合併特例債の有効期限内でもある私の町政2期目に、町民の皆様のご理解をいただき、実現させたいと考えています。

子育て支援と

老人福祉の充実

子育て世代の方々が安心して生活が営めるよう保育所待機児童数ゼロを実現し、老朽化した学校給食センターは衛生面等を考慮し、より安全・安心な給食を提供するため、現在、愛南町学校給食センター（仮称）を整備しています。また、高齢者福祉サービスは、施設入所待機者等の不安を少しでも払拭する

ため、養護老人ホームの移転に伴い入所定員数を10床増床し、80床としました。

今後も、地域福祉計画を核に協働の町づくりをめざし、障害者の社会参加をサポートする等、子どもから高齢者まですべての住民が、住み慣れた地域で安心して生活が営めるよう各種福祉サービスを充実させます。

終わりに

私たちの愛南町には、一次産業の振興や医療、福祉、教育等まだまだ課題は山積していますが、私の役割は、一歩ずつ、間違いなく、真つすぐに行政に取り組み、町民の皆様は活気と笑顔をもたらすことだと考えています。そのためにもあらゆる努力を惜しまず、町政2期目に全力を傾注する覚悟で臨みますので、町民の皆様には、ますますのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。